鉄鋼標準化センター

1. 8 月度トピックス

(1)国際標準化関係

1. 会員資格関連

• GOST(Russian Federation)が 1991 年分会費支払いにより復帰.

• カナダが TC17 および SC の資格を P メンバーから O メンバーに多数変更

• 前回, TC17/SC11 の日本の資格が P メンバーになったと報告したが, これは誤報によるもので現状でも O メンバーのまま.

2. Quarterly Report の継続について(TC17 Secretariat 発行)

標準化センター業務量とのバランスで活用されてなければ中止しようとの意図で各国の意見を聞いた結果, 有用との回答が半数 (7 カ国) あった為, 頻度は若干減らすものの今後とも継続することとした.

3. ステンレス鋼に関する ASTM と ECISS (ヨーロッパ) の合同会議に日本も参加する件

ステンレス鋼の成分に関して ASTM と ECISS で若干異なる. ISO 規格化で参加の多いヨーロッパに押されぎみで従来から大きな懸案となっていた. この間の調整を検討する為にもつ会議であるが ASTM に準じている日本の参加も呼びかけられた為それに答えるべく調整中.

4. ISO 国際会議多数開催

9 月～11 月 にかけて 9 件の国際会議があり, 日本からも大半出席予定.

(2)国内標準化関係

1. 標準化の長期計画, 三者構成委員会のあり方の検討を標準化委員会運営分科会で行っている. 大体の骨組みができつつある段階で, 次回 9 月 7 日に継続検討する.

2. 標準化委員会の組織体制について

先月迄で各分科会の担当範囲が確定したが, 他協会, 他団体との調整, 分科会内の構造 (ワーキンググループ等) の整理もほぼ終り, 組織体制としてはほぼまとまってきた. この関連で残されているものは情報収集・交換の為の外部団体との連携の仕組み作り, 原案作成に使用者の意見を取り入れる仕組み作りがある.

3. 計量法の改正

法定計量単位を原則として今世紀中に国際単位系に統一するため, 現在使用が認められている国際単位系以外の単位を, 段階的に法定計量単位から削除する計量法の改正が行われ 5 月 20 日公布された.

4. JIS 硬さ試験方法 5 規格の改正.

ブリネル硬さ試験方法, ビッカース硬さ試験方法, ロックウェル硬さ試験方法, ショア硬さ試験方法, 及び微小硬さ試験方法の 5 規格が 7 月 1 日付で改正された. ISO 規格との整合, SI 単位の導入, 内容の見直しなど大幅な改正である.

5. 平成 3 年度実施の公示検査の結果の発表

平成 3 年度に実施した公示検査の実施は 8,912 工場で, そのうち問題ありとした工場数は 621 工場 (7%) であった. なお鉄鋼部門 (G) では, 261 工場が実施され, 問題ありとした工場は 4 工場 (1.5%) となっている.

2. 標準化活動状況

(1)委員会・分科会活動

1) 鋼材 JIS 見直し調査三者構成委員会

1. 工業技術院から委託された平成 5 年度に見直し時期の来る鋼材規格 39 規格を審議する委員会を新規に発足, 8 月 6 日に第 1 回目の会議を開催. 構成メンバーは木原東大教授を委員長として中立委員 6, 使用者委員 8, 製造者委員 8. 使用者出身団体は次の通り.

日本自動車工業会, エンジニアリング振興協会, 建築学会, 火力原子力発電協会, 日本水道協会, 日本瓦斯協会, 日本機械工業連合会, 土木学会

今回は, 委員長の互選, 当委員会の職務について, JIS と ISO 規格の整合の考え方および今後の進め方を討議. 次回会議開催は 11 月 10 日.

2. 見直し調査に使用する関連 ISO 規格 (又は DIS) の和訳完了, 関係分科会に配付.

2) 標準化委員会/運営分科会

1. 8 月 27 日会議開催し, 鉄鋼標準化の長期計画, 三者構成委員会のあり方について討議. 継続審議のため, 次回 9 月 7 日に会議開催.

2. 各主査にお願いしてそれぞれの分科会の平成 4 年度活動計画作成.

3) 標準化委員会/JP1 分科会

JP1 担当になっているレール関係の ISO 規格(SC15)について前原主査と事務局で鉄道施設協会と調整. 結論として従来通り同協会から鉄鋼協会に委員を派遣. JPI 内では, WG を設けるとの主査の意向. JP1 の第 1 回目のキックオフミーティングは 9 月 24 日.

4) 標準化委員会/JP2 分科会

JP2 内では鉄鋼関係の ISO 規格について WG を設けないが鋳鍛鋼会から代表委員を出してもらい, この方に副主査になっていただく予定.

現在, 大浦主査の方で今後の運営方針検討中.

5) 標準化委員会/JP3 分科会

JP3 担当の亜鉛鉄板関連の ISO 規格について森下主査と事務局で亜鉛鉄板会と調整. 同会の最終決定待ちであるが, 従来通り同会から本会に委員を派遣する方向.

JP3 内では WG を設けるとの主査の意向. 結果としてブリキ関係, 亜鉛鉄板関係の WG を持つ事になりそう. 第 1 回目のキックオフミーティングは 9 月 8 日で, この時 SC9 の 3 つの CD のコメントに関する討議も行う.

6) 標準化委員会/JP4 分科会

1. DIS 投案票件 3 件 DIS4955 (耐熱鋼), DIS683-18 (みがき用鋼), DIS11692 (熱間析出硬化型フェライトパーライト鋼) の検討, コメント処理完了.

2. SC4 の Secretary の情報で次回国際会議は来年前半. その準備のための検討は 10 月 8 日行う.

7) 標準化委員会/JP5 分科会

その担当範囲から JP 5 分科会の組織編成が一番複雑で調整に時間を要したが，宮本主査，事務局の水野の努力でほぼ煮詰ってきた．つまり JP5 内に線材関係（WG1），鉄筋関係（WG2），PC 関係（但し棒鋼：WG3）の 3 つの WG をもつ．その他に PC 線，ストランド関係，バネ用鋼線，溶接金網があるが，これらは線材製品協会が JP5 に委員を派遣するとともに受け皿になる．また上記 WG2 は普通鋼電炉工業会からの委員が，また WG3 は線材製品協会/PC 技術協会からの委員が主体的に取り組むことになろう．

第 1 回目のキックオフミーティングは 10 月 2 日．

8）標準化委員会/JP6 分科会

1．濱田主査 JP6 分科会の運営方針作成

2．9 月 9 日の第 1 回分科会で，鋼材 JIS 見直し調査委員会への回答ならびに JIS 規格/ISO 規格整合化の基本方針を討議する予定．

9）標準化委員会/JP7 分科会

1．奈良主査 JP7 分科会の運営方針作成

2．8 月 26 日に第 1 回分科会を行い，9/28-30 にデュッセルドルフで開催予定の TC67/SC1（ラインパイプ）に提出する日本の戦略を討議した．

さらに突っ込んだ討議を第 2 回分科会として 9 月 11 日に実施予定．

10）標準化委員会/JE1 分科会

1．桃木主査 JE1 分科会の運営方針作成．

2．11 月始めに開催される SC20 国際会議の議題 CD377-1（機械試験用供試材及び試験片の採取と調整）の内容を各委員で検討中．また工技院よりの依頼の「金属製品熱処理用語」に関する JIS 原案の検討実施．

3．上記の内容について 9 月 2 日第 1 回のキックオフミーティングを行い討議する予定．

11）標準化委員会/JE2 分科会

1．西島主査 JE2 分科会の運営方針作成

2．7 月 22 日の第 1 回会議のフォローアップとして

①G0567「鉄鋼材料及び耐熱合金の高温引張試験方法」等 6 規格について JE2 に新たに参加された委員による書面審議を開始した．

②疲労 WG の委員委嘱を行った．

3．試験機工業会 JIS 原案作成委員会（ブリネル硬さ）委員を，JE2 の樋田委員，笠井委員にお願いした．

12）標準化委員会/JE3 分科会

1．分科会主査会社（大同）と鉄鋼標準化センターで今後の分科会の進め方について打合せした．

2．10 月にパリで開催される予定の SC7 国際会議については議題の資料を入手後急いで中身を担当会社で検討し，出席の有無を決定することにした．

13）標準化委員会/JE4 分科会

平成 4 年度 JIS 見直し・原案作成（計 9 件）に関する JE4・共研・第三者構成委員会メンバーへのアンケートを集計中．

14）標準化委員会/JE5 分科会

第 1 回分科会を共同研究会品質管理部会，非破壊検査小委員会幹事会と同時開催することとした．

15）TC67/SC5諮問部会

1．10/19-20 に神戸で行われる TC67/SC5/WG1 での CD11960（ケーシング，チュービング）の日本コメントを討議した．

2．10/21-23 に神戸で行われる第 2 回 TC67/SC5 国際会議に Secretariat の提案として

①CRA　OCTG の New work group の進め方

②関連 API 規格の ISO 化

をどういう内容で望むか方針を討議した．

さらに詳細検討を 9 月 22 日に実施予定

3．TC17 幹事国業務

国際規格発行に関する進捗状況

（1）ISO 規格が発行されたもの：2 件

ISO 683-14（SC4）焼入れ焼戻しバネ用熱間圧延鋼（08-15）

ISO 683-15（SC4）内燃機関用バルブ（08-15）

（2）SC が DIS 登録を申請したもの：2 件

CD 10698（SC1）Sb-無炎原子吸光法（08-16）

CD 10700（SC1）Mn-原子吸光法（08-14）

（3）ISO 中央事務局関連

1．Viena Agreement の実行に関して下記 2 点の要請が各 TC と SC へ

・現在この Agreement に従って実施している作業項目の連絡（TC17 には対象のものがまだ無い．）

・各 TC はその Strategic policy statement を見直すこと．（TC17 としては次回の見直しチャンスに実行する）

2．会員資格

・GOST（Russian Federation）が1991 年度会費支払いによって復帰．従って TC17 関係で資格中断している会員はアルジェリア，北朝鮮，ケニヤ，ガーナの 4 カ国．

・Standard Council of Canada より TC17 内のカナダの資格を次のように変更するよう連絡を受けた．

P メンバー→O メンバーへ変更：TC17，SC2，SC3，SC9，SC11，SC12，SC13，SC15

O メンバー→脱会：SC7，SC18

P メンバー→脱会：SC20

（4）TC17 全般

1．TC17/EC 会議議題検討

来年開催予定の同会議の議題について TC17 議長と予備検討．議題は 4～5 つで，その内の目玉は ISO 9002 の鉄鋼用ガイド（鉄連内プロジェクトで検討）か？

本件は 10 月 9 日の TC17 諮問部会で詳細検討する．

2．第 17 回 TC17 総会決議事項のフォローアップ

・Resolution 5/91：Questionnaire N2531 による投票の結果 ISO/TC17/WG19 は解散し，従ってその作業項目 WI244.3 は削除された．

3．Quarterly report の存続について

標準化センター業務量との関係で本レポートの利用レベルによっては発行中止しようとの意図で Questionnaire を回付した．その結果は下記の通りで，発行回数を若干減らす程度で継続することとした．

やめてもよい：7（ノルウェー，フィリピン，南アフリカ，フィンランド，オーストリア，TC17/SC18，

TC17/SC12)

続けて欲しい：7（イギリス，アメリカ，トルコ，韓国，ポーランド，TC17/SC17，TC17/SC16）

(5)TC17/SC4

1. SC4 Secretariat より次の情報入手

• 次回国際会議は 1993 年前半

• 議題：N1384……ボールおよびロールベアリング鋼
N1384……ISO683-1，ISO683-11 の 5 年見通し案件の処置

2. ASTM の Mr Tyson からステンレス鋼の成分に関する ASTM と ECISS の合同会議を米国フィラデルフィアで開催，日本への参加の呼びかけがあった．

ステンレス協会から代表を送ることで調整中．

合同会議の日程：10/26 日～28 日

(6)TC17/SC7

SC7 Secretariat より情報入手．今後 TC17/SC7 の Secretariat は J. VEROLLET から P. PRIESTER に変更して運営される．

(7)TC17/SC11

前回 TC17/SC11 の日本の資格が O メンバーから P メンバーになったと報告したが，これは SC11 の Secretariat と日本鋳鍛鋼会の書類上の不手際による誤報．現状でも O メンバーで変更なし．

(8)TC17/SC12

次回国際会議日程決定

日時：1993 年 6 月 8 日～11 日

場所：マンチェスター

4. TC17/SC1 幹事国業務及び関連業務

1. 承認段階（Stage 4）：

(1)DIS 10702（N-蒸留滴定法）：DIS の投票中（03-12～09-12）．

2. 委員会段階（Stage 3）：

(1)CD 10698（Sb-無炎原子吸光法）；DIS 登録のため中央事務局へ文書（英文，仏文とも）送付済（08-06）

(2)CD 10700（Mn-原子吸光法）；DIS 登録のため中央事務局へ文書（英文のみ，仏文はAFNOR で作成中）送付済（08-14）

(3)CD 10278（Mn-プラズマ）；WG12 コンビーナーが最終 CD 作成中（9 月末目標）

(4)CD 10697-2（Ca-原子吸光法）；最終 CD を DIS として登録するための準備中，フランス語版は AFNOR で作成中．

(5)CD 10719（GC-燃焼赤外線吸収法）；WG20 コンビーナーが最終 CD 作成中（9 月末目標），DTR 登録を行う予定．

(6)CD 10701（S-吸光光度法）；最終 CD 作成中（9 月末目標）

(7)CD 10720（N-融解熱伝導率法）；再実験準備中．

(8)CD439(Si-重量法)；最終 CD 作成中(9 月末目標)

(9)CD 11652（CO-原子吸光法）；再実験準備中．

(10)CD 11653（CO-電位差滴定法）；コンビーナーが検討実験を行ったのち再度国際共同実験を行う．

(11)CD 4941（Mo-吸光光度法）；WG31 コンビーナーが最終 CD 作成中（9 月末目標）

3. 作成段階（Stage 1/2）；次の作業グループの活動のため参加者募集中（08-17），締切 1992-10-31.

(1)WG 32（Ni, Cu, Co-ICP）

(2)WG 33（Mo, Nb, W-ICP）

(3)WG 34（B-MAS）

(4)WG 35（B-ICP）

(5)WG 36（S-HFIR）

(6)Ad hoc G 14-1（Low C）

(7)Ad hoc G 14-2（XRF）

4. その他 TC/SC との liaison

(1)フレーム原子吸光法通則の規格化（担当；日本，小野幹事）

(2)誘導結合プラズマ発光分光分析法通則の規格化（担当；フランス，スウェーデン）

(3)無炎原子吸光法通則の規格化（担当：イタリー）以上 3 件については ISO/TC47/SC1（化学）（幹事国；オランダ）が新作業項目登録中

(4)鉄鋼のサンプリング……英国規格案をベースに修正した案文を ISO/TC17/SC20/WG1 メンバーに送付(08-10)（締切：1992-10-31）

5. ISO 5 年見直し（1987 年発行及び確認規格）結果の配布（08-17）．

(1)ISO 437（C-燃焼重量法）継続確認

(2)ISO 629（Mn-吸光光度法）継続確認

(3)ISO 671（S-燃焼滴定法）継続確認

(4)ISO 4945（N-吸光光度法）継続確認

5. TC67/SC5 幹事国業務

1. TC67/SC5 神戸会議（10/21-23）への出欠回答

現時点で，出席はフランス，ドイツ，米国，中国，イタリヤ，ノルウェー，日本の 7 ヶ国．欠席はエジプトの連絡受．

出欠回答を 8 月末の締切で依頼のため，再動未連絡のところに出欠確認（～9/15）を行った．

2. TC67/SC5/WG1 Secretary に WG1 神戸会議（10/19-20）のDraft Agenda を参加国に送付した．

3. ルーマニア（IRS）がTC67/SC5 の P メンバーであることが判明した．

4. TC67/WG2 ロンドン会議（9/29）に日本から八杉委員（NKK）が出席する旨連絡した．

6. 国際会議（向こう 3 か月間の予定）

9 月 16 日～18 日	TC17/SC19 国際会議（ミラノ）
9 月 15 日～16 日	TC164/SC1 国際会議（パリ）
9 月 17 日～18 日	TC164/SC3 国際会議（パリ）
9 月 28 日～30 日	TC67/SC1 国際会議（デュッセルドルフ）
9 月 29 日	TC67/WG2 国際会議（ロンドン）
10 月 1 日～2 日	TC67総会（ロンドン）
10 月 19 日～20 日	TC67/SC5/WG1 国際会議（神戸）
10 月 21 日～23 日	TC67/SC5 国際会議（神戸）
10 月 21 日～23 日	TC17/SC7 国際会議（パリ）
11 月 3 日～6 日	TC17/SC20 国際会議（デュッセルドルフ）